## ンテ イ ア滞在記

大西由香

テマラは、 ていた。まず、 久々の海外はいろんなことが変わっ 物価。 ル160円という円安 16 年ぶりのグア

2 倍、 の影響もあり、 語学学校の授業料は3倍に値上 円換算すると下宿代は

がりしていた。

行った。

024年5月、

8年ぶりに海外へ

逃してい

たが、

円安にひるんでいる場合ではないと航 親の看病やコロナ禍で機会を 記念すべき還暦を迎え、 インはパスポートを見せるだけ。 に変わっていた。 次に、 旅の必需品。 航空会社のチェ ゚゚゙゚゙゚ スポ

係官がパスポートをスキャ 出入国の手続きもペ 印刷したEチケットの控えは出番なし。 空券、お金」から「パスポートとスマホ」 ーパ ーレスになり、 ンして、 家で

空券を手配した。

紋も撮って、認証されれば通過。日本に 写真を撮って、 国によっては両手の指

極力避け

40

か国ほど行った。リピー

知らない土地に行きたい」と同じ国は

したのは、

朩

ストファミリー

-がいたア

メリカとご当地料理が大好きなメキシ

ると、

せっせと旅に出た。「できるだけ

リカへ行って以来、

お金と時間ができ

海外旅行は趣味だ。

20

歳の時に

ア

帰国した時は係官もいない窓口で自ら スポ ートをスキャ ンして、 顔をカメ

ラに向けて、 問題なければゲ /ートが開

コ、

トルコ、

タイ。

あとは、今回のグア

て入国という要領。 セ ルフレジだ。 マジで書類書くこと まるでスー

なかった、こりゃラクチンだったわ、と

油断し ていたら最後の最後、 日本入国

後の税関で申告書を書いて出せと言わ

慌てた。

会いたい 下宿屋の女将ロ 思いが募り、 メリアにもう一度、 回目の訪問と

性が良か

ったことがリピ

の理由だ。

回行ってい

る。

スペイ

ン語学校に格安

で通えることと、

下宿先の家族との相

テマラだ。

96

年

06

年、

08

年 の 3

なった。

ス マホの必要性に至っ ては、 驚きの

©YukaOnishi2025 (1)

が、 ん。 話までできた。 え、 話など会う人ごとに聞いた。 の国。 えていた。 外では通話できない契約だし、 連続だった。 0 わざネッ 及したとのことだった。 環境が整っていて、ネットがサクサク。 けでなく下宿先も語学学校もW 上に手放せない存在となった。 ことにした。 と思い悩み、 その後もバスや路上で強盗に遭遇した ホ 問題で持っていかなくても良い のが安全な古都・ から「不要不急の渡航中止」のレベ 貴重品の持ち歩きはやはり心配。だ 耳たぶごと盗られるで」と教えられ、 コン ムペ ならばデジカメ持ってい NEもフェイスブックも使え、 今回は自室でいつでもできた。 初めて行った時は「ピアスはあか 通信環境はコ トカ ージで「十分注意」 でメ 目的地は外務省の海外安全 出発すると、これが日本以 フェ 結局スマホを持ってい そもそも私の 学校の先生に聞い に行っ アンティグ の送受信をし 口 ナ禍で て時間貸し 前回までわざ スマ 0 アとは 一気 滞在する くのか? 空港だ 治安の かと考 ホは海 てい ベル に普 たと ル2 通 恐 た

> 同時に、 のだ。 うな失敗も苦労もなくなるわけで、 語を学ぶ必要はなくなったな、 とつまらんと思うで。 時の緊張も通じた時 い思いをすることはなくなるけれど。 私が初めてグアテマラに入った時のよ ニケーションがとれるということは、 やねん。 た。しかし、ここまで便利なのもどない 面を出して見せに来た時は、 子を紹介して」とスマホに日本語 ある日、 スマホで調べながら授業を受けて 引くより翻訳サ るべし変化だ。 それって面白い 口 言葉がわからなくてもコミュ 初めて使う言語で声をかける メリアの孫が「日本人の 学校の授業中も辞書を イトのほうが早 の興奮もなく でっ か? と思っ ۲, いた。

なって 機能が変わってて欲 洗浄機付き便座など望めるはずはなく 使った紙は いうだけの は改築し、 同じ変わるならシャワ お湯は相変わらず冷水じゃな いたが、 シャ ゴミ箱に捨てるパ 「ぬるい水」だし、 出ると言われたシャ ワ ーとトイ しかった。 は新 下宿先 ン。

私は大人用のお尻拭きを持参し、凌いむら仕方ない。その分、街並みは変わっから仕方ない。その分、街並みは変わってなくて、ホッとした。

心地よ 常の風景が一変した私にとって、 昔と変わらず毎日、掃除や洗濯をし、用 テマラのその景色は癒しにもつながる あった。この数年で両親を見送り、アメ なしくなったそうで、滞在中は昔から 戻ってきたご主人ルイスは、 意ができれば「ご飯だよ~」と呼びに来 と変わらない笑顔で迎え入れてくれ、 61 て来た時と同じ食卓の風景が、 口 に機敏には動けなくなっていたが、 78 いなぁ。 メリアの作ったご飯を食べた。 た感情を噛みしめた。 町並み同様、 歳になったロメリアは、以前のよう ている大きな食卓を一緒に囲み、 のホストファミリーも他界し、 もの 28 この年になったからこそ抱 であった。変らないって、 年前に若い女に捨てられ 人も変わってなかった。 以来おと そこに グア 初め

(終わり)